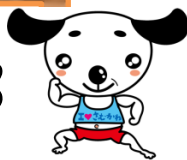




えぼし麻呂



えぼ丸通信 No.3



げんき丸

- 1P 病院間情報交換会開催
2・3P 超高齢社会とこれからの
地域社会を考えよう
4P 住民向け講演会報告
相談実績と依頼講座

発行元：茅ヶ崎市保健所
地域保健課在宅ケア相談窓口
〒253-8660
茅ヶ崎市茅ヶ崎一丁目8-7
Tel 0467-38-3319（直通）



茅ヶ崎市寒川町 病院間情報交換会開催

平成29年12月22日に茅ヶ崎市寒川町にある9施設の病院の皆さんにお集まりいただき、情報交換会を行いました。この会の目的は、地域の医療機関同士が顔の見える関係づくりを構築し、在宅で療養されている患者さんの緊急入院や外来受診時のスムーズな体制づくりを行うことです。

第一回目ということで、まずはネットワークづくりを重点的にを行いながら、各病院の現状やこれから目指していきたいことなどを話していただきました。

設置母体が様々な状況下での連携は、まずはそれぞれの経営方針を理解することから始まると思います。その上で、各病院が機能分化しながら患者さんのこういった状況に対応していくのかを明確にし、地域の中で責任を持ちながら対応する事が重要です。

今後も、災害時の対応や緊急入院に対するベッド確保、地域の医療介護の専門職との情報共有といった課題に対して検討を進めていく予定です。

・・・参加者の感想・・・

けやきの森病院事務部長 星 亮太氏

寒川町にあります精神科単科病院のけやきの森病院です。今までは精神科ということもあり、地域との接点が少なかったのですが、地域包括ケアの研修会や病院間情報交換会に参加させて頂き、地域医療に関わっておられる方々から精神疾患や認知症の対応に困っているとの生の声を聞く事が出来ました。

精神科病院でもこのエリアのお力になれる事がたくさんあるのではないかと思いますので、これからもよろしくお願い致します。



超高齢社会とこれからの地域社会を考えよう

最近、病院・診療所・薬局などで、「かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局を持ちましょう」というフレーズに出会うことが多くなったと感じていませんか？今、日本では超高齢化を見据えて医療体制の再構築が進んでいます。

我国の高齢化は急激に進んでおり、このような社会への対応として構築を目指しているのが「地域包括ケアシステム」（医療・介護・予防・住まい及び生活支援が一体的に提供される社会的な仕組み）であり、その中の一つに在宅生活を支える医療体制づくりがあります。国は、今までの“施設完結型医療”の体制を見直し、病院ごとの機能を明確にして効率化を図りながら、地域の専門職の連携を推進して“地域完結型医療”の構築をめざし、「かかりつけ医・歯科医・薬剤師」を持つことを勧めてきました。このような現状を踏まえて、地域社会について考えてみたいと思います。

戦後日本では、いつでもどこでも安心して医療を受けられることを目指して「国民皆保険制度」を整えてきました。この制度によって、誰でも必要なときに医療を受けられるという環境が出来上がり、これが日本人の平均寿命を世界のトップクラスまで押し上げてきた要因の一つとなりました。

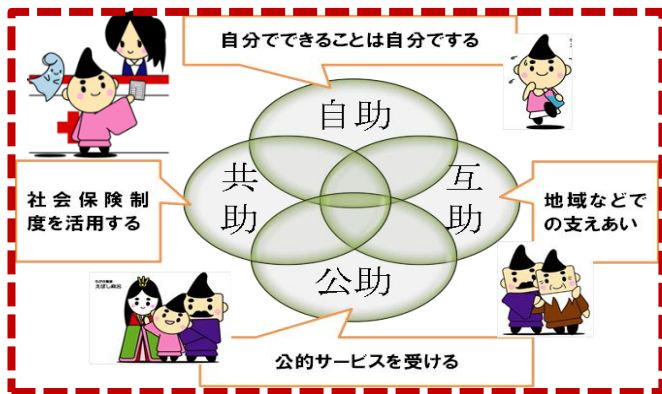
そして、健康教育などの充実も奏功し、「人生 100 年時代を生きる」という言葉まで出現しました。昭和 25 年の平均寿命は男 58.0 歳・女 61.5 歳であったことを考えると、日本人の寿命の延びには目を見張るものがあり、これからは人生 100 年時代に対応するための課題に向き合っていくことになります。

特に医療制度は、多くの課題を抱えています。「国民皆保険制度」は、高齢化率（全人口の中で 65 歳以上の人口が占める割合）が 6%以下という状況の下で作られましたが、現在の日本では 25%を超え、これから先も上昇していきます。それとともに医療費は年々上昇を続け、今の医療制度を継続させるためには大きな改革が必要となってきました。



そこで国は、まず医療と介護を分けて医療費の削減に取り組み、在宅で医療や介護を続けることができる仕組みとして2000年に「介護保険制度」を作りました。また、それまでの大病院信仰にくさびを入れ、医療の在宅移行を進めてきました。地域の専門職や行政は、この状況を理解した上で地域の医療や介護の連携システムを作っていく為に協同し、まさに粉骨砕身の努力を重ねています。

では、これらの状況を踏まえて私たちは何をしなければよいのかを考えましょう。地域包括ケアシステムの構築は、行政だけの取り組みでは不十分で



あり、住民一人一人が自分の事として取り組む事が大事だといわれています。

自助 自分のことを自分でする 自らの健康管理

互助 自発的な支え合い 住民組織の活動 ボランティア活動

公助 一般財源による高齢者福祉事業 生活保護 人権擁護など

共助 社会保険制度やサービスの利用

少子高齢化や財源の事を考えると、「公助」「共助」に今まで以上の期待をすることは難しく、これからの地域社会では「自助」「互助」を意識した取り組みが必要になってきます。

高 齢になっても元気で活躍できる社会を作ること、国全体の医療費を削減し、生き生きとした社会を作ることにつながります。自分の力を社会

のために役立てることができれば、生き甲斐にもつながり、健康維持に役立ちます。まずは、自分の周りに気を配り、＜お互い様＞の風土づくりが出来たら素敵ですね。これからは地域全体で、**すべての人が輝ける社会**を作るために、自分にできる一歩を踏み出しませんか。

百花
繚乱



住民向け講演会が開催されました！

テーマ

「おひとりさま」が最期まで自分らしく生きるには ～安心して老いるために準備すること～

お正月気分が抜けきらない 1 月 14 日（日曜日）に、社会学者である上野千鶴子先生を講師にお迎えして、住民向け講演会を開催いたしました。説得力のある話し方に引き込まれ、「金持ち」ではなく「人持ち」を目指すという言葉が印象に残りました。これからは、自分らしく生きることを目指していきたいと思います。

・・・

参加人数 261名

（申し込み時点で大きな反響があり、約 90 名の方をお断りすることになりました。参加できなかった皆さん、ごめんなさい。）

何かと不安な高齢者。老後の生活や将来への不安、家族間の問題については、高齢者は歳を取ったら自分の意志をなかなか言えない現状にあります。

しかし、今回講演を聞き、また「おひとりさまの老後」「男おひとりさま道」を読み、現在の高齢化社会での現状を踏まえた上で、「在宅ひとり死」は「孤独死」ではないと知らされ考え方が変わりました。そして、病院や施設の現実を知り、在宅で死を迎えるという選択肢について再度考えました。

「医療」「看護」「介護」この3つが揃っていれば在宅死は可能かもしれません。「ぴんぴんころり」を期待していますが、なかなかそういうわけにはいきません。「他人にゆだねる事」「一人で頑張らず、今までの生き方やしがらみにこだわらず、自分で選択すること」が大切と話されました。



講演を聞いた後はもやもやとした気持ちが一新され、話されたことが心の中にストンと入り爽快感が残りました。

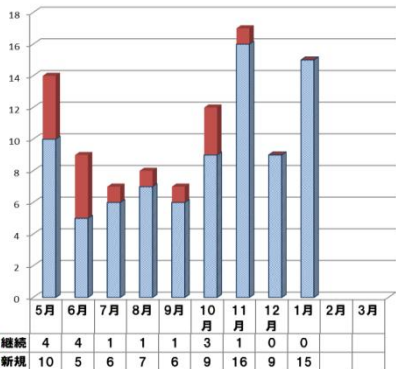
今後ともご活躍されることを祈念しております。

地域包括支援センターくろみ 金子恵

相談実績と依頼講座

月別相談件数(件)

■新規 ■継続



依頼講座

「在宅医療」をご存知ですか？

住み慣れた地域で暮らし続けるためにできることがあります。

家での療養を支援するために、在宅医療という選択肢があります。地域の集まり（地域のサロン・自治会等）に在宅ケア相談窓口の職員が講師として伺います。

安心な生活につながるヒントを盛り込んだ内容で気軽に学んでみませんか？

講師の派遣を希望される方は、茅ヶ崎市保健所 地域保健課

「在宅ケア相談窓口」にご連絡ください。

TEL 0467-38-3319